

contents

メディア・コーディネータ - これからの学校に絶対必要な先生 -	東原義訓	1
'98 スタディ夏の研修会		
報告 信州大学公開講座	山川能史	3
インターネットを活用した新しい授業の展開 (塩尻市研修会)	澤柳孔伸	4
テレビ会議システムを使った講演	余田義彦	4
スタディ中央研修会報告		5
「校長先生への手紙」がおもしろいです	余田義彦	5
お知らせ1 スタディノートスタートアップキット'98完成!		5
スタディノート実践報告 - 滑川のホタルイカはだいじょうぶ?	水橋 渉	6
研究会 & 公開授業のお知らせ		7
学研『New』に五十嵐先生の記事が載りました		7
お便り - つくば市立並木小学校のホームページ更新! -	毛利 靖	7
Microsoft Outlook で文字化けを防ぐ設定方法	山島一浩	8
お知らせ2 スタディ講演ビデオ集「これからの教育とコンピュータ」作成中!		8

メディア・コーディネータ

- これからの学校に絶対必要な先生 -

信州大学教育学部教育実践研究指導センター
東原 義訓

メディアコーディネータという言葉は、世間によく知られた言葉というわけではありません。多分、初めて目にしたと言う方が多いと思います。なぜなら、「メディア・コーディネータ」という言葉は、私が作ってこれから広めていこうとしている言葉だからです。インターネットで「メディア・コーディネータ」を検索しますと、ファッションやインテリアデザインの世界では使われることがあるようですが、教育の分野では一件もありませんでした。

コンピュータが学校に盛んに導入されるようになったのは、1985年に文部省が補助金を出すようになった時からです。それから10年以上が経って、導入されたコンピュータが大変よく使われているところと、全くと言っていいほど動いていないところが出てきています。よく使われている、使われていないの違いが起きてくる原因の一つに、学校や地域に、私がメディア・コーディネータとこれから呼ぼうとしている立場の人がいらっしゃるかどうかがあります。

欧米の小・中学校には、その学校または地域のコンピュータ・コーディネータまたはテクノロジー・コーディネータと称せられている方がいらっしゃって、外国から来たお客さまなどに対応していることが多いのです。私が、1987年にCECの北米視察(団長:中山和彦)でカナダのバンクーバーを訪れたときも、

そうした方々が対応して下さいました。その時は、制度が始まった直後であったためか、どのようにしてコンピュータ・コーディネータを養成しているのかの説明が特に強調されていたように思います。何しろ私にとって初めての海外視察でもあり、英語力がまだ不十分だったためもあって、このコーディネータの詳しい役割を完全に理解したとは言い難かったのですが、とにかく日本にもこうした制度がほしいと思いました。

私がこれから提唱し、必要性を訴えていこうとしている「メディア・コーディネータ」とは、次のような立場の方です。

クラス担任または教科担任が情報教育やコンピュータやネットワークなどのマルチメディアを利用した指導を行うことを様々な方法で支援する人
児童・生徒と直接かかわる人

こうした立場の方を今までの学校の中で探そうとすると、難しいと思います。強いて言えば、専科の先生かもしれません。たとえば、音楽の授業を音楽専科の先生と担任と一緒にTTで行うといったようなことをイメージして下さい。ですから、メディア・コーディネータの先生は、普段はコンピュータ室にいらっしゃいます。そして、必要な時にTTで授業を行います。もっとも、TTといっても担任とコンピュー

秋の公開授業・研究会開催のお知らせは、7ページにあります。

タ・コーディネータの先生がずっと同じペースと一緒に授業をするというわけではありません。CAIに例をとれば、一学期はコンピュータ・コーディネータが中心になって授業を進め、担任は脇で見ていることが多いけれども、学期が進むにつれて、担任が授業を進めるようになり、三学期には担任がほとんど一人で授業を行いコーディネータの方が脇にいるだけになるという具合です。

日本においては、こうしたメディア・コーディネータに類する制度は、まだ一部の地域や学校で行われているにすぎません。愛知県豊田市、富山県滑川市は教育におけるコンピュータ利用で先進的な地域として全国に知られていますが、メディア・コーディネータにあたる先生が配置されています。長野県の場合も、コンピュータ室がよく稼働していて、校内のほとんど全ての教師がコンピュータ室に児童・生徒を連れて行っている学校の多くに共通することは、メディア・コーディネータの役割を果たす教員がいらっしゃることです。平成10年度の場合、指導方法改善のための教員として、コンピュータ関係で県内に13名が配置されています。この指導方法改善のための教員というのは、文部省に申請して認められれば、加配されるものです。

最近の文部省の調査研究協力者会議の最終報告書(情報化の進展に対応した教育環境の実現に向けて(情報化の進展に対応した初中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議最終報告))でも「情報化推進コーディネータ」の名称でメディア・コーディネータ的役割の重要性が取り上げられています。そこでは、「学校の情報化支援の人的充実」のために、「インターネットなどの新しい情報技術が学校に導入される際には、その適切な導入の在り方、教育面での活用法、維持・管理、トラブルへの対処法等、これまでに予想しなかった様々な対応が求められ、学校や教育委員会にとって大きな負担となる。このため、各都道府県政令指定都市の教育センター等や教育事務所などに、学校に対する教育的、技術的な指導・助言、ハードウェアやソフトウェアに関する情報の提供、情報処理技術者やボランティアの活用に関する企画や連絡・調整を行うなど、学校の情報化を支援する人材(例えば、情報化推進コーディネータなど)を配置することについて検討することを提案したい。」としています。

メディア・コーディネータにあたる方々が、実際にどんな仕事をしいらっしゃるのかを調査させていただいて分析してみました。すると、次のような事がメディア・コーディネータの活動としてあげることができそうです。

メディア・コーディネータの活動

A 学校内での活動

情報環境の整備(ハード、ソフト、教材など)
 カリキュラム開発、年間利用計画立案
 校内研修の企画・指導
 TTとしての学習指導と担任への援助
 コンピュータ室の休み時間等の開放
 利用状況の把握と公表
 教職員からの相談への対応
 教材ソフトの開発
 部活動、不登校児童等への対応
 学校事務処理への支援
 最新情報の入手と研究および紹介

B 地域の学校への公開活動

公開授業
 視察の受け入れ
 ホームページによる情報発信

C 地域の中核としての活動

研究会の開催
 講演会の開催
 研修会の開催
 地域の他校への支援(講師)
 研究会での報告、研究発表

D 他校、他地域との連携

連絡会、メーリングリストへの参加
 共同学習の企画・参加

E 地域社会への貢献

「パソコン教室」等の開催

ここに挙げた仕事全部をすべてのメディアコーディネータの方々しているわけではありません。全部をしていらっしゃる方もありますが、一部の方もあります。最初に挙げた学校内での活動はすべての先生がされていると思います。また、他校、他地域との連携はインターネットの普及とあいまって、これから重要になってくる仕事です。地域の中核としての活動を長野県のK先生を例にあげると、コンピュータ専科として小学校に所属しながら市のコンピュータ導入に関する手伝いや市の勉強会の会長をしていらっしゃいます。

こうしたメディアコーディネータの先生方と一緒に仕事をしていて受ける印象を整理してみると、メディア・コーディネータに求められる条件がわかってきました。

メディア・コーディネータに求められる条件

同僚の教職員に安心感を与えられる存在である。

児童・生徒と直接触れ合える。

年齢、経験にとらわれずリーダーシップを発揮できる。リーダーシップを発揮できる方ならば、新任の先生でも構わない。

学級担任、教科担任との十分なコミュニケーションが取れる。児童・生徒や先生方と一緒に居るより、コンピュータとお友達でいたいというような方は不向きです。

企画力・調整力に優れている。

最新の情報に敏感である。

自らがインターネットなどを利用して、積極的に他校や遠隔地の学校等とコミュニケーションできる。

「総合的な学習の時間」に特徴をもつ新学習指導要領で示される新しい授業を実現するためには、メディア・コーディネータはなくてはならない存在です。しかし、予算の面からも、制度上からも、すべての学校に直ちに配置されることは期待できません。また、メディア・コーディネータに対する管理職の理解、さらにその他の学校構成員の理解が必要です。そして、多くの仕事をこなさなければならないメディア・コーディネータの養成をどうするかなど、今後の課題も多くあります。養成に関してですが、今年度から、信州大学教育学部附属教育実践研究指導センターでは、メディア・コーディネータの養成をめざして、従来から行ってきた公開講座や、内地留学生と短期研修生の受け入れを見直し、研修内容を再構成しました。また学部生を対象とする授業「メディア・コーディネータ論」の開設も計画中です。

'98 スタディ夏の研修会

今年の夏も、北は北海道から南は沖縄県まで、文字どおり全国各地でスタディ研修会が開催されました。そこで、これから21世紀に向けて子供たちが自ら学ぶ力を付けていくために、また、総合的学習の手段として有効なコンピュータ活用について熱心な研修が行われました。ここでは、そのうちのいくつかをご紹介します。

報告 信州大学公開講座

信州大学教育学部 内地留学生 山川 能史

その1

「マルチメディア教材開発」

信州大学教育学部公開講座「マルチメディア教材開発」と題して信州大学教育学部附属教育実践研究指導センターにおいて、8月8,9日に行われました公開講座の様子を報告します。

参加者は42名にのぼりました。北は北海道から南は沖縄まで全国からおいでいただき感謝感謝です。参加された先生の中にはホームページを見て参加して下さった先生もおいでになり、改めてインターネットの力に感動しました。また、義務教育の学校の先生ばかりでなく、看護専門学校の先生も7名参加いただき、いろいろな場面で「マルチメディア」を使った教材が求められていることもわかりました。次回はさらに多くの幅広い方と交流し研修が深まるのもっといい教材が開発できるのではないかと感じました。日程や内容ですがホームページ (<http://cert.shinshu-u.ac.jp/news/980808.html>) で公開しております。ご覧ください。

この研修会の特徴の一つは、多くのスタッフで支えられている点であると思います。参加者からも「多くのサポートがあり、コンピュータ教育は人の温かさを再認識する場である」「側にスタッフがいて安心して実習できた」との声が寄せられました。スタッフ14名で、実技及び事務会計等にあたりました。スタッフの中には、県外から来ていただき事前準備もお手伝いしていただいた先生もいました。その先生は、「研修も勉強になるが、こうした裏側の準備もいい勉強になる」と言われていました。研修会が成功するのも、こうした裏方の努力があれば、ですね。1から10までやってみてわかる部分もあることを再認識もしました。各地域のスタッフの先生方、本当にご苦労様、そしてさらに、お互いががんばりましょう。

今回研修会の新しい特徴は、「スタディーノート」を「ノート」として使いながら、「マルチメディア教材」を授業でどのように構想していくか、自分の考えを練り上げていく実習を試みたことにあります。全員の先生というわけではなく、「マルチメディア教材づくり」に精通されている先生方で行っていただきました。

まず、自分が用意してきた学習コースの構想を「スタディーノート」に表わします。それを「データベース」に「親情報」として登録する。登録された「親情報」に対して、各先生が「意見や質問」をその

「親情報」の「子情報」として登録していくといった学習活動を続けました。最後に自分の考えがこの先生のこのアドバイスでこのように変わり、修正版としてこのようなコースができた。または、このようなコースにしようと考えている、という発表(プレゼンテーション)を「スタディーノート」でしていただきました。これを見て、先生方の苦労したところや考えが変わったところ、いいアドバイスでより深められたところが、よくわかる楽しい発表会になりました。

情報を記録するだけのノートが、互いの情報をキャッチボールして、新しい情報を創造して発信できるノートに変わっている。さらに情報の記録の全てが学習の足跡として記録され、それがそのままプレゼンテーションとして全体に公開できるなど、「スタディーノート」の活用の幅広さと、「ネットワーク仕掛けのノート」の面白さに感動しました。「先生方からの貴重なコメント(スタディーノートのデータベース上での情報交換)もさることながら、スタディーノートの面白さがかえって印象深かった」と感想を記してくれた先生もいらっしゃいました。

おまけとして、今回1日目の夜ビアガーデンで懇親会を開いたところ多くの先生方に参加していただき、深夜まで楽しく情報交換ができましたことを加えさせていただきます。次回も多くの先生方に信州へおいでいただけたらうれしいです。

その2

「校長・教頭先生のためのインターネット入門」

信州大学教育学部公開講座「校長・教頭先生のためのインターネット入門」と題して信州大学教育学部附属教育実践研究指導センターにおいて、8月10日に行われました公開講座の様子を報告します。

参加者は18名、スタッフ9名で行いました。ほとんどが長野県の校長・教頭先生ですが、中には遠く愛知県や広島県からも参加していただきました。日程や内容は、ホームページ (<http://cert.shinshu-u.ac.jp/news/980810.html>) で公開しております。ご覧ください。

今回は、午前中に中山和彦筑波大学名誉教授にご講演をいただきました。午後は電子メールでメール交換をしていただき、インターネットで必要な情報を検索することを体験していただきました。

コンピュータに不慣れな先生方が多かったので、一つ一つ丁寧な説明が東原先生からされていました。それを熱心にメモを取る先生方の姿が、大学生をいつも見ている私にとって、とても新鮮に感じました。また、熱心にキーボードに向かう姿が印象的で「もっとやりたい」との声も多くの校長・教頭先生からお聞きしました。見ているだけだと、なかなか難しそうだが、やってみると意外に簡単でもっとやりたいと思うようになる点が、コンピュータの魅力かなあと思いました。これから、コンピュータ導入、インターネット接続など、多くの問題を抱えて参加された先生方が多かったようで、新たなエネルギーが充分充電された研修会になったという感想が目立ちました。暑い中ご苦労様でした。

長野県塩尻市教育センター
夏休みコンピュータ活用研修会

「インターネットを活用した 新しい授業の展開」

塩尻市教育センター 澤柳 孔伸

7月28日～29日、長野県塩尻市教育センターを会場に、夏休みコンピュータ活用研修会が開催されました。松本地方の先生方の同好会、松本CAL研究会・塩筑教育工学同好会の2団体が共催して行いました。夏休み中にもかかわらず、定員を超える23名の先生方が集まり、スタディノートを中心とした新しい授業の展開について、実際にスタディノートを利用しながら研修しました。

1日目は、VTR版「未来の教室」を視聴することからはじまりました。VTR版「未来の教室」は、塩尻市を中心とする長野県が取材地でもありますので、研修の導入としては好評であり、CAIに触れたことのない先生方には、予備知識を得るという点で特に研修に入り易かったと思われる。

VTR版「未来の教室」でも、DOS版のスタディノートが紹介されており、VTR視聴後すぐにスタディノートに触っていただき、スタディノートがどんなものであるか概要を知っていただきました。

続いて、富山県滑川市西部小学校の水橋先生に「3人の武将大百科」をはじめとする西部小学校の実践を発表していただきました。参加者からも今後の授業を計画していく上で大変参考になったとの感想が寄せられました。

午後には、余田先生にご講演をいただきました。直接ご指導願えればと考えていましたが、予算的にも余田先生のスケジュールからも、塩尻にお越しいただき講演していただくことは難しいものがありました。そこで、来塩していただくかわりに、テレビ会議システムの利用はできないものか、ご相談したところ、余田先生にも大変興味を示していただき、NTTのフェニックスを利用した遠隔講演を試みることにしました。

NTTの松本・土浦両支店の全面的な協力を頂き、事前・前日と試験を繰り返し、万全の用意をして当日を迎えたつもりでしたが、試験では鮮明に写し出されていたプロジェクトの画面が、当日、期待したほどの解像度を得ることができず、技術的な面では課題が多くありそうです。しかし、お忙しい講師の先生方の負担を少しでも軽くするという点では、たいへん有効です。今後、双方向という特性を生かす工夫や、事前に配布する資料の位置づけ、現地と講師の綿密な打ち合わせ等、明らかになってきた課題を克服しながら、今後も引き続き、研修における新しいメディアの活用を試みていきたいと思えます。こうした試みを繰り返す中でノウハウを蓄積しニーズにあったものにしていくことが大切であると感じました。スタディ地域研修会で初めての試みとしてたいへん意義ある講演方法だったと思えます。全国各地で試みられることを期待いたします。

1日目の最後には、ブエノスアイレスで小中学生を対象にコンピュータの指導をしているアンドレア先生に、アルゼンチンの情報教育の現状についてお

話いただきました。週2時間コンピュータの時間があるが、教科指導におけるコンピュータの活用は遅れているというお話等、興味深く聞かせていただきました。アンドレア先生は、しばらく日本に滞在されるので、松本地方の子どもたちとブエノスアイレスの子どもたちの交流に、多くの先生方が期待しています。学習支援案の中にも、アンドレア先生のを通じた学習交流の場面設定が登場したほどでした。今後、期待したいと思います。

2日目は、文部省理産審議会委員の鈴木敏恵さんの講演VTRを視聴することからはじまりました。

その他、ホームページ作成や手作りLANの視察等、計画は盛りだくさんでしたが、日常の授業の様々な場面で、スタディノートを活用した新しい授業のイメージを幅広く持っていただくことが、今回の研修の主目的であることから、スタディノートを利用した支援案作りとその発表に最も多く時間を割きました。

特に、簡単に作成できるデータベース機能を利用した支援案作りを重きを置きましたので、スタディノートが単なる子ども用のメーカーと理解していた先生方には、こんなこともできるのかと驚きと共に、授業での活用場面を幅広くイメージできたようです。また、データベースという難しいというイメージが付いて回っていますが、スタディノートの3分間で作れる空っぽのデータベースで、コンピュータのことを苦手だと思っている先生方にも、これは授業で使えるぞという感想を持っていただくことができました。大きな成果と考えます。さらに、スタディノートを利用して、それぞれの支援案に対する意見を交換し合える時間をもっと割けば、情報のキャッチボールのイメージを更に具体的に体感していただくことがきたのではないかと反省しています。

余田先生のホームページにスタディノートの研修のための活動集が公開されました。たいへん参考になります。ご利用をお勧めします。

研修に参加された先生方からは、いつスタディノートが導入されるのか、2学期からすぐにでも使いたいという声が寄せられています。また、他地域の先生方からも、今後教育用コンピュータの仕様を考える時に、スタディノートは必須だといっていたいでいます。

研修に参加した全員の先生方が、明日からのコンピュータを活用した授業に期待を寄せながら、研修を終えました。

テレビ会議システムを使った講演

東京家政学院筑波女子大学

余田 義彦

98年7月28日の塩尻市教育センターで行われたスタディノートの研修会では、筑波女子大学と教育センターを、NTTのテレビ会議システム・フェニックスで結び、筑波から余田が塩尻の先生方に向かって講演を行いました。そのときの舞台裏の様子をご紹介します。これからは、こういった方法で行われる講演も増えていくでしょう。はじめての経験だったのですが、なかなか面白かったです。テレビ会議システムというと、SCSといった衛星通信を使った高価なシステムもありますが、手近

なもので、どこまでのことは出来て、どこから以上のことは出来ない...ということもよくわかりました。この点については、別の機会に改めて報告させていただきたいと思えます。貴重な経験をされる機会を与えていただいた澤柳先生とNTTの皆さんに感謝致しております。

毎年夏になると各地で研修会のお手伝いをさせていただいております。このことは嬉しいことなのですが、最近、歳のせいかわかりませんが、移動がきつくなってきました。また、移動にかかる時間を節約できれば、もっと効率よくいろいろなところのお手伝いができるのではないかと考えています。「どこでもドアがあればねえ...」なんて毎年夏になると冗談のように言っていたのですが、その夢が少しずつではありますが、実現されてきていることを実感しました。

気になるお値段ですが、まずフェニックスのシステムを調達する必要があります。これを借りるなどして何とかできれば、ISDNの回線を1日だけ臨時に引くのは2万円ぐらいでできますので、電話回線の使用料をそれに加えても3万円程度の経費で何とかできます。

筑波女子大学側の風景



小さな部屋でフェニックス・ワイドに向かって講演をしている。

モニタ画面には、塩尻側の先生方の様子が映し出されている。そして、画面右下には、筑波側のカメラの映像が小さく映し出されている。



モニタの上に載っている物が、フェニックス・ワイドのシステム一式。ISDNの回線、モニタ用テレビ、外部入力(書画、ビデオ入力)などをテレビゲームをつなぐぐらいの簡単さでセットアップできる。

Study in Yaita

スタディ中央研修会報告

今年のスタディ中央研修会は、校内研修会をテーマに8月3日4日の2日間開催されました。

第一日目は、午前中、東原先生の講義「メディアコーディネータと校内研修のあり方」、中山先生の講演「21世紀の教育とコンピュータ - 教育課程審議会のまとめを踏まえて - 」に続いてCAI & マルチメディアを中心とした校内研修の方法の研修が行われました。第二日目は、スタディノートを中心とした校内研修の方策についての研修および発表会が行われました。

研修は、CAI & マルチメディア、スタディノートとも実際に校内研修会に活用することができる資料に基づいて行われました。これから校内研修会を企画・運営・指導しようとする先生方が、メディアコーディネータを目指して、頑張られました。



発表会で最優秀賞、優秀賞に選ばれた先生方と中山先生

お知らせ(その1)

スタディノートスタートアップキット '98 完成!

このCD-ROMには、学校にスタディノートが導入されて「さあ、使おう!」というときに役に立つ、プログラムやデータが入っています。子どもたちの学習活動や、先生方の研修にお役立て下さい。

なお、1998年の夏の研修会場でスタディノートのCD-R

Study in Toçukai

「校長先生への手紙」がおもしろいです

by 余田義彦

8月5日、6日に、東海市立加木屋南小学校で行われた『知多地方マルチメディアコンピュータ研修セミナー』で、水橋先生(富山県滑川市西部小学校)の実践発表を撮影したビデオと子供達で作成したデータベースを見せてもらったのですが、「うーん」と思わず唸ってしまいました。特に、国語科での実践である「校長先生への手紙」というのが面白いです。内容は、校長先生のお話を聞いた子供達が校長先生に宛てて手紙を送る...というものなのですが、それぞれの子供達が校長先生に宛てて書いた手紙をいきなり校長先生に送ってしまうのではなく、データベースに登録し、お互いに評価しあっているわけです。そうした評価を受けて、手紙をそれぞれが改めて書き直し、それを校長先生へ送っています。そして、(たいへんだったと思うのですが)校長先生が一人ひとりの子供に返事を書かれていて、それもデータベースに加えられています。

子供達の相互評価の内容は、修辭的なものが多いのですが、情報倫理に関わるようなものもありました。子供達の生き生きとした雰囲気伝わってくる素晴らしいデータベースに仕上がっていました。

(スタディノートメーリングリストより転載)

を購入された先生には、ご希望があれば、差し替えをいたしますので、ECO Newsまでご連絡下さい。

価格 1枚 3000円(+消費税150円)

入手方法 郵便振替で下記へご送金下さい。

その際、通信欄に必ず「スタディノートスタートアップキット '98」とご記入下さい。

口座番号 00160-9-727214 / 口座名 ECO News

スタディノート 授業実践報告

滑川のホタルイカはだいじょうぶ？

滑川市立西部小学校

教諭 水橋 涉

1 校種 小学校
2 学年 第5学年
3 教科 社会科
4 単元名 「わたしたちの生活と水産業
滑川のホタルイカは大丈夫？」

5 使用教科書 東京書籍
6 指導者 5年1組担任 水橋 涉
7 達成目標

- ・ホタルイカが滑川市の宝物であることを指摘することができる。
- ・ホタルイカの漁の仕方を説明することができる。
- ・ホタルイカ漁の漁師さんの苦労を仕事という観点で指摘することができる。
- ・ホタルイカの漁獲量の減少の理由を漁師の高齢化や人数の減少、環境汚染、他県のホタルイカ漁の中から1つ以上結び付けて説明することができる。
- ・ホタルイカやその漁についての自分の考えをコンピュータで表現することができる。
- ・ホタルイカ漁に携わる人々のホタルイカへの思いや願いを説明することができる。
- ・ホタルイカを大切にしていこうとする自分の考えや方法を説明することができる。

8 学習活動の概要

・ホタルイカの図案が市内のいろいろな施設で用いられていることに気づかせてホタルイカが滑川市にとって大切なものであることを話し合った。次に、10年間のホタルイカの漁獲量の移り変わりのグラフを見て、思ったことを話し合い、自分で学習計画を立てて自分の問題を追究していった。自分で集めた資料やデータベースにある資料、そして、データベースに登録してある友達の考えを調べ、ホタルイカが減少した理由を考えたり、ホタルイカや郷土滑川に対する思いを高めたりしながらその考えや思いをスタディノートでまとめデータベースに登録し、話し合いで活用した。

9 ねらい

・データベースに登録したホタルイカ漁に関する自分の考えをもとに滑川のホタルイカの漁獲量が減少している理由を説明することができる。

・友達の発表を聞いて、自分の考えの異同を指摘することができる。

・滑川のホタルイカに対する見方、考え方を聞き、ホタルイカ漁に携わる人々の苦労や願いを指摘することができる。

・滑川のホタルイカを見守り、大切にしていこうとする自分なりの考えや方法を説明することができる。(話し合いの後のまとめで記述することができる。)

10 事前準備

・種類リストの作成「意見、感想、資料、質問、答え」

・キーワードリストの作成「施設、水産試験場、その他の県、その他の漁、その他の魚、汚れ、漁師さん、ホタルイカの数、ホタルイカの生活、ホタルイカの増やし方、ホタルイカの漁、大丈夫、ピンチ、その他」

・資料収集(市観光水産課、県水産試験場、漁業共同組合、ホタルイカミュージアム、滑川漁港、漁師、ホタルイカ漁に携わる加工食品社長)

・市の観光課で出している資料をスキャナで読み取り、みんなのフォルダに登録

11 遅れがちな子供への手立て・配慮

・コンピュータの操作や資料作りでは、それほどの能力差はない。一番配慮しなければならないのは、一人調べの段階での社会的思考や資料活用能力の差である。どうしても遅れがちな子供へは、マンツーマンによる対話でできるだけ、一人一人の子供のよさが発揮できるように支援した。例えば、自分の問題には気づいているが、それを考えたり解決したりする資料を探せないA君には、教師が資料を選び、その資料から読み取れること考えさせた。また、テキスト中心で見る者にとって思いが伝わらないと予想できるB君には、一番言いたいことは何かを考えさせた。一つ一つの資料を読み取る力は高いが、読みとったことや考えたことを関連させられないC君には、教師との対話の中でまず自分の解決したいことを確認させ、資料から読み取った要点メモをもとに、自分の問題を考えさせた。また、教師が一人調べの段階で積極的に他の児童とかかわりがもてるように支援した。同じような考えをもつD君とE君には、2人でメールのやりとりや話し合いをするように助言した。

遅れがちな児童に配慮することはもちろん大切なことであるが、教室の一人一人の考えや思いに教師が寄り添い、一人一人にあった適切で効果的な支援をする必要があると考える。

12 授業を通しての感想

・滑川市においてホタルイカ漁は古くから行われ、近代になって名産・食料となったが、近年では県外、市外での水揚げ量が増加し地元での漁獲量の減少や漁に携わる人々の高齢化・後継者問題など多くの難問を抱えている。しかし、最近、ホタルイカは市のシンボルマークとしてその図案に採用され、ホタルイカミュージアムの建設など町おこしの起爆剤として重要な役割を担っている。また、地元では季節を代表する貴重な水産資源として各家庭の料理に頻繁に用いられるなど、市民の生活において身近な物でもある。ホタルイカやその漁に携わる人々についての考えたことは、自分たちの食生活を支える水産資源の重要性に気づくだけでなく、携わる人たちの気持ちに触れ、ホタルイカを大切に、そして、自分の誇りと感じる郷土愛を育むことができたと思う。また、身近な地域教材であるが故に子供たちは意欲的に調べた。ホタルイカやその漁を全く自分と無関係なこととしてとらえるのではなく、自分の生活と深いつながりがあることに気づき、これからのホタルイカ漁について自分の考えをもつなど社会的判断力が高まったと思う。

・農業の学習では自分の考えをノートにまとめるとき、文章だけでまとめる傾向があった。しかし、スタディノートを活用したことにより、自分の考えをまとめるときに文章だけではなく図や絵などを効果的に用いて、分かりやすくまとめるよう助言した。子供たちにとってスタディノートを本格的に触って2週間という短い期間であったが、コピーやペー스트を効果的に利用し個性的な見方、考え方が分かるデータを作ったと思う。また、そのために、話し合いのとき友達のデータを真剣に見つめ、話もしっかり聞き、自分の生活が水産業と深くかかわっていることを理解し、自分の追究を見直し、深めていったと考える。

研究会 & 公開授業のお知らせ

秋です！運動会の秋，文化祭の秋，そして，研究発表会 & 公開授業の秋と先生方には大忙しの季節がやって来ました。

今年は，次の指導要領に示される「学ぶ学校」「総合的な学習」をも視野に入れたスタディの実践研究および公開授業が各地で予定されています。スタディシリーズは，21世紀を目指す教育現場にとって，ますます，有効な道具となることを体験して下さい。

第48回 近畿学校視聴覚教育研究大会兵

庫大会(兼兵庫大会西播磨大会)

期日 平成10年10月30日(金)

会場 香寺町立中寺小学校

0792-32-0049

(幼稚園も中学校も同時開催ですが，スタディ関連は小学校のみ。)

主題 視聴覚メディアに主体的にかかわり，自ら学ぶ力を育てる教育のあり方を追求しよう
公開授業授業(このうち，4・5・6年で
スタディノートを予定)

1年生活「アメリカのおともだちこんにちは」

2年生活「ここをつたえたいね

- アメリカにいる優子ちゃんに送ろう - 」

3年道徳「見つけたよ！ 光っている自分」

4年社会「すてきいっぱい兵庫県」

5年社会「これからの工業と環境

- 夢の工業製品プロジェクト - 」

6年総合「修学旅行わくわく調査隊」

障害児生活「木の葉や虫たちと友だちになろう」

平成10年度

鶴ヶ島市立鶴ヶ島第二小学校研究発表会

期日 平成10年11月18日(水)

会場 鶴ヶ島市立鶴ヶ島第二小学校

主題 自ら学ぶ意欲を育てる学習指導法の工夫と改善

- コンピュータを活用した学習指導を通じて -

公開授業 小3 社会「わたしたちの商店がい」

小6 理科「水溶液の性質」

講演 筑波女子大学 助教授 余田義彦

問い合わせ 鶴ヶ島市立鶴ヶ島第二小学校

: 0492-85-1878

室蘭市立港南中学校研究授業 & 講演会

期日 平成10年11月20日(金)

会場 室蘭市立港南中学校他

主題 情報活用能力の育成を目指した教育活動の展開

- 情報機器・情報メディアの有効活用を通して -

公開授業 国語・英語

講演 21世紀教育研究所所長 中山 和彦

問い合わせ 室蘭市立港南中学校

0143-22-8388

つくば市立桜南小学校研究発表会

日時 平成10年11月27日(金)

会場 つくば市立桜南小学校

主題 自ら学ぶ力を育成するための学習指導法の改善

- 総合的な学習をみずえた環境教育・情報教育の推進 -

公開授業 各学年

問い合わせ つくば市立桜南小学校

: 0298-51-2130

UTL : <http://www.ounan-es.tsukuba.ibaraki.jp/>

学研『NEW』に掲載されています！

八王子市立柏木小学校の五十嵐俊子先生のスタディノートの授業実践報告が，学研『NEW教育とコンピュータ』9月号に載りました。タイトルは，「9月の授業実践紹介(小学校 理科)意見交換を重視した問題解決活動をネットワークコンピュータで実現」です。

つくば市立並木小学校
ホームページに

お便り

保健室 校長室コーナー開設！

並木小学校のホームページに「保健室」「校長室」をアップしました。このコーナーは，毎週更新します。

趣旨は，並木小では「開かれた学校」をテーマにして研究を進めています。その一環として，校内で児童向けに発信しているデータベースをホームページに公開し，保護者に見てもらい，「学校では保健安全に気を配っているんだな」「校長先生は，こんな風に考えているんだな」というのをわかってもらうためです。これらを通じて保護者との信頼感を高めたいと考えています。

「夏のいきもの見つけたよ」も新設！！

「夏のいきものみつけたよ」もホームページにアップしました。これは，昨年度，五十嵐先生の発表を聞いて「これだ」と思ったことを実践しているものです。子どもの「教えて」をスタディノートのデータベースを使って行っている最中なのですが，たくさんの子情報がきました。子どもは，自分の持っている知識を教えたがるものなのですね。さらに，保護者や研究機関からもアドバイスをいただくためにホームページにアップしました。保護者から早速次のようなメールをいただきました。「あそこに聞いてみたら」とか「のメーリングリストを紹介します」。まだまだ始まったばかりですが，なんだか大事になりそうです。

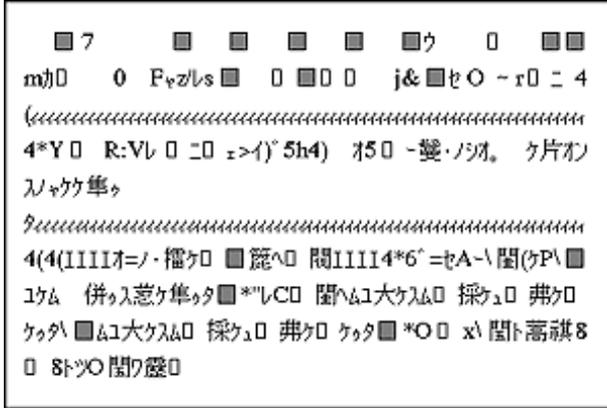
つくば市立並木小学校 毛利 靖

(スタディノート・メーリングリストより転載)

あなたのメールは、

文字化けしていませんか？

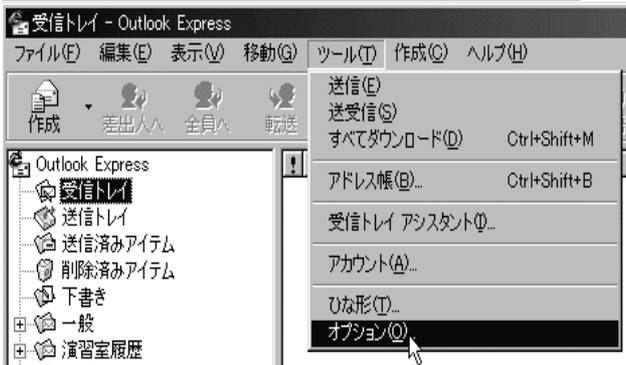
電子メールをマイクロソフトオフィスの中に入っているOutLookを使って出すと、受取り側が使っているメールソフト（メーラー）によっては、文字化けやHTMLの制御命令が入って、大変読みにくいことがあります。ところが、こうした事が起こっていることが、送り手側ではわかりません。そこで、下の実例を見て下さい。



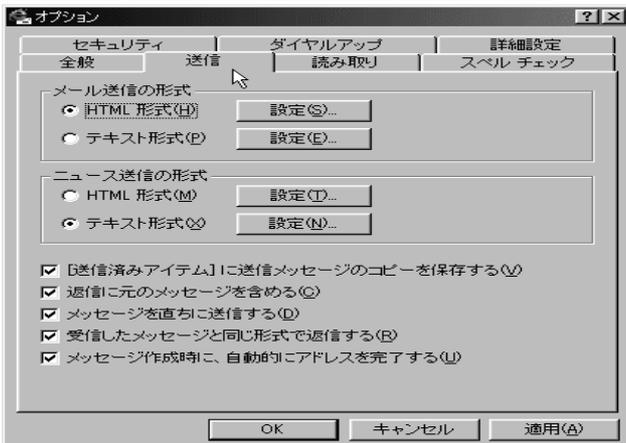
これでは、せっかく送られて来たメールを読むことができません。こうしたことは、OutLookの設定を変更すれば、防ぐことができます。設定の変更方法を以下に載せますので、必要な方は是非やってみて下さい。「メールが読めない」と苦情を言われなくて済みます。

OutLook Expressの送信オプションを
HTMLからTEXT文書へ設定変更する方法
筑波女子大学 山島一浩

STEP 1. ツールメニューからオプションを選択



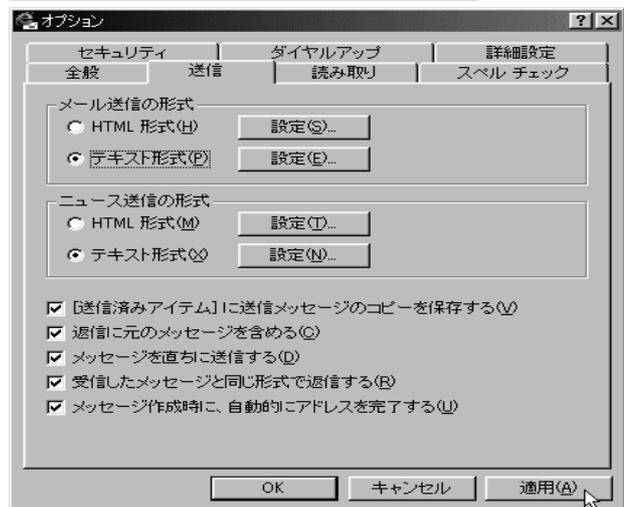
STEP 2. オプションメニューから送信を選択



STEP 3. 送信形式をテキスト形式に変更



STEP 4. 適用をクリックして設定完了



(余田先生のホームページより掲載させていただきました。)

お知らせ (その2)
スタディ講演ビデオ集
 「これからの教育とコンピュータ」作成中！

第1巻「これからの教育のあり方」
 講演 21世紀教育研究所 所長 中山和彦

第2巻「コンピュータは役に立つのか」
 講演 21世紀教育研究所 所長 中山和彦

第3巻「授業で活かすマルチメディア」
 講演 信州大学教育学部 助教授 東原義訓

第4巻「授業で活かすネットワーク」
 講演 筑波女子大学 助教授 余田義彦

スタディの基本的考え方や上手にお使いいただくための基本的な使い方の講演ビデオ集です。研修会などにお役立て下さい。価格や入手方法は、決まり次第、次号ECO NewsまたはECO Newsのホームページに掲載いたします。

〒305-0005
 茨城県つくば市
 天久保 4-3-10
 Tel 0298-50-3321
 fax 0298-50-3330
 e-mail econews@green.ocn.ne.jp
 URL http://www.eri21-unet.ocn.ne.jp/